

相 場 均

アーリカだより

花とワインの都と云うと
ペリーになりますが、こゝ
はアメリカ南部最大の都市
ニウ・オリエンスで、合衆
国がナボレオンから買ひと
つたルイジアナ州にあります。
アカデミー賞をとつた
「欲望と言う名の電車」や
「鉄のわな」と云う背景は
この古ぼけた昔のフランス
を思い出させるニウ・オリ
エンスなのです。私のいるテキサス州
のオースティンを朝の九時に出で、ハ
ンサムな支那貴族の何威全と云う私の
親友とかわりあつて、ドライブしつづ
けて、たどりついたのが夜の十二時半
そうして次の日から色々とめぐり歩い
ている次第です。

昨日、ちよつとした偶然から一人の
外人と知り合いになつて、一緒にミシ
シッゼーイ河口を、アメリカ映画に出
て来るような古風な汽船のデッキの上
で共に過しました。その人がイングランド
シア共和国のウイラートマージヤ氏で
この人はアメリカ政府から招聘されて
いる優秀な国民指導者であるとともに
出版関係、特に小学校のテキスト子供
の絵本の仕事をしている市民でもある
のです。ウイラートマージヤ氏は、教育
問題、出版関係の視察と調査をつゞけ
ながらヨーロッパやアメリカをめぐり
ているので、私たちが彼にばつたりこ
の街で会えたのは、偶然の幸だつたの
でしょう。私たちはすつかり気が合つ
てしまつて、子供の教育制度のこと、
絵本やテキストのこと東洋の社会政治
の問題などを語り合つて、時がたつの
を忘れた位でした。

インドネシアの教育制度は戦後六三
三制にかわり、アメリカと同じようにな
つて、全ての子供は学校へ行くこと
になつてゐるのだそうです。幼稚園は
それも数が少なく、保育時間を短めて
何部制がになつてゐるとかのことでした。小さい子供のためにナーセリース
クールもあるそうですが、話からはまだ充分の発達には至つていらないような
印象を受けました。いくら貧しい日本
とは云え、この若い国にくらべると、
贅沢は云えない立場にあるようです。
ウイラートマージヤ氏には、日本の
教育関係の人と情報の交換、又特に彼
が直接担当している絵本などのことに
ついて必ず日本人の人々と連絡が出来る
ようとりはからうと、かたい約束をし
てわかれたのですがあのイングランドネシア
人特有の大きな眼と、憂國の志士らし
い、しまつた口もとの印象は今でもあ
ざやかに心の中に残つています。
私たちはニウ・オリエンスにさよ
うならをして、古巣のオースティンへ
帰えろうとしています。この休暇によ
つて新鮮な心をとどめどして、ふたよ
び忙しい研究生活にもどるために。

*

*

*

*

*

☆ ☆ ☆

テキサスと云うと人々は、いかにもアメリカの片田舎だと思うでしようし、テキサス大学などもそこいらの三流大學と考えられてしまうのも無理ありません。広いアメリカのことですから、北部の人たち、つまりアメリカ人たちですら、そんな風に考え方なのですね。しかし、テキサス州はアメリカの石油の半分を産出し、綿の有名な産地でもあります、お金が湧き出て来るような大地なのです。したがつて、その州立のテキサス大学も、新興大学であつて、めきめきと発展向上しています。

私がこゝへ来る前、日本心理学会会長の高木貞一先生におめにかゝつたら、「テキサス大学は今、四階建のサイコロジイ・ビルディングをつくつてゐるし、コネル大学からダレンバック先生が行つたし、近く世界一の心理学の研究機関になりますよ」と云われました。そうして二年たつうちに、アメリカと云われるサイコロジイ・ビルデ

イングも完成するし、優秀な学者もあつまるし、だんだん高木先生のおつしやるようになつてきました。

テキサスの人は、とてもお国自慢で有名なので、今日はテキサス人に代つて、テキサスとテキサス大学の自慢話を書きました。

さて、近況ですが日本からの視察者は、たゞてサンフランシスコ、ワシントン、ニューヨークのあたりをまわつてかえつてしまわれるのが多いのですが、この頃はこゝへよられる方がめつきりふえて、とてもにぎやかになりました。新しいところから云うと小説家の長与善郎氏が秘書のレングストン氏と共にこられて、日本文学についてのコンファレンスに出席されました。

そのちよつと前には、京大の木原均教授、山下考介博士、北大の牧野佐二郎教授、東京工大的神原周教授があいつゞしてたゞざいされていました。

この他、東大教授の日高考次博士が農工大学の方で、教授をされていて家

中で来てもらひしやいます。オースティン市には、二世その他、日本人と名のつくるものがあつめると約二十名になります。テキサスにこんなり、視察の旅行者もテキサスに日本植民地があるとは知らなかつたとびっくりされたりします。

大学には、鳥取大学講師の田總武光氏ほか約十名の日本人が英語学、教育学、社会学、綿花学をそれぞれ研究しています。

私も、二年ほどこのオースチンに住みついてしまいましたが、この六月からは、しばらく北部の精神病院で働く予定です。勿論十月にはこゝへもどつて来るつもりなのです

